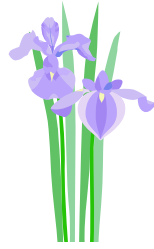
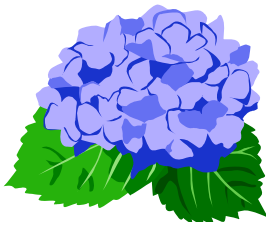


茅ヶ崎 自然の新聞



平成18年6月号(272号)

【編集】

茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】

茅ヶ崎市文化資料館

〒253-0055

茅ヶ崎市中海岸2-2-18

TEL&FAX: 0467-85-1733

Mail: shiryokan@city.chig

asaki.kanagawa.jp

東海岸のハボウキガイとオオソリハシシギ

3月22日、本州北部に停滞する低気圧の影響で、初夏の気候と冬の降雪の気候が入り乱れている。今朝も朝7時頃は、摂氏4度くらいで風が冷たい。

犬の散歩に浜に出る。菱沼海岸の網元の浜に上げられた漁船の下に、物色しろといわんばかりに、25センチくらいハボウキガイが打ちあがっていた。一部は鳥につつかれたように欠け落ちていた。身はまだ貝柱にしっかりと支えられていた。この種類では、タイラギというのが5~6センチの稚貝(ちかい)で打ちあがったりはするが、ハボウキガイは私にとってははじめての収穫である。鳥に先回りされてなければ試食できたかもしれない。

夕方の弱い光の中の撮影ですがシャッタースピードが遅いのでピントが甘くなってしまいましたが、オオソリハシシギだと思われます。

(菱沼海岸 井川洋介)



Nature of Chigasaki in Brief

茅ヶ崎自然情報

樹液のツララ

毎日、スリーハンドレッドゴルフ場を1周する早朝ウォーキングをしています。

3月14日6時20分頃、堤杉山原地区でミズキの切り口より流れ出た樹液がツララになっていました。切り口4ヶ所より、長いもので約15cm、10数本できていました。

霜が降り、冷え込みがかなり厳しかったのですが、樹液は何度くらいで凍るのでしょうか。

なお、翌日も同じようにツララができていました。その後20日、21日にも見られましたが、切り口から出る樹液が少なくなったのか、ツララは短く、2~3cmでした。

3月21日には、近くの民俗資料館の脇で、桜が数輪咲きはじめていました。



樹液が氷柱になった様子



(松風台 山崎孝弥)

小出川の花ごよみ

3月21日(火)晴、大曲橋から上流聖天橋のちょっと上まで歩きました。大曲橋の橋の上から川をながめていると潜水艦の頭みたいに水面にうかんでいる黒いものがみえました。カワウです。

丁度、朝食中なのか時々頭から全部沈めて3~4秒もぐっては顔出しを何回もくりかえしてしていました。そのそばにコサギが飛んできてこちらを、ポーとながめています。

待ち遠しい春を一番に感じさせてくれるのは、ブルーの宝石をちりばめたようなオオイヌノフグリです。まだ朝の空気が冷たいせいか花はすぼみ気味です。お日様が上に昇った頃には、まばゆいくらいの輝きをみせてくれました。ヒメオドリコソウも花びらが寒さで縮まり加減です。

タネツケバナの白い花は、清楚な姿で沢山咲いています。その群の中に紫色の大きめの花が1株目立ちました。ムラサキハナナでした。ノグシヤカントウタンポポの黄色の花も地面をほうように咲い

ています。

野草摘みして味わいたいと思うノビル・ヤブカンゾウもほどよい大きさに成長しています。大きなミズキの赤い冬芽も大きくふくらみ、その赤いオーバーを脱ぎかけていました。最近、見つけることがむずかしくなったワレモコウを見つけ、よかったよかったと大喜びしました。考えてみると喜んでばかりでいいのでしょうか?今まであたりまえにあったものがいつのまにか消えていく……。その現実には植物にも鳥にも昆虫にも……。

誰が植えたのかレンギョウの花も咲いています。レンギョウの垣根はよく見かけますが花が下向きに咲いていて、あらためて観察したことがないので、花の中をのぞいたり匂いをかいだりしましたが香りはありません。花びらは4枚が普通なのでしょうが同じ枝から5枚の花びらを見つけました。ホトケノザの花がツンと上を向いて咲いています。私はいつもこれをみつけると、子供の気持ちにかえてその小さな花をつまんで口にふくんでピーと鳴らすのが好きです。小さくてすこし力を入れるとつぶれてしまいそうな花から意外と大きな音がピーとなるのです。

川と反対側の開けた空き地にヨシやオギの立枯れたところがあります。足をふみ入ると、ズブズブ入ってしまいそうなのでやめました。そこにセリをみつけました。「春は名のみ」の『早春賦』の歌詞を思い出し、「アシは角ぐむ」の角はどこにあるのかなと捜しました。赤い角がニョキニョキと生えていました。「この角は地中でつながっているのよ。」と仲間が教えてくれました。

土手を歩く足下には、はやくも踏まれて耐えているオオバコの姿がありました。山菜として食べられるし、薬草としても利用されていることを思い出して、どんな薬効があるのか本でたしかめました。

種子は、天日干しにして袋に入れて煎じると粘液性でやや飲みにくい。葉は煎じて服用すると、のどの痛みや胃腸病によいとありました。

マユミの木には、小さな葉と共に小さな花のつぼみがぶらさがっています。そのマユミの木に、去年から、からみついているアケビの木も小さなつぼみをつけていました。スイカズラはますます元気に勢力をのばしています。ムラサキケマンのやわらかい葉も出ています。セイタカアワダチソウの枯れ枝に、オオカマキリの卵のうを10個くらいみつけました。もうしばらくするとその中から小さな命が殻をやぶって沢山でてくるでしょう。そして、どれくらいの命が生きのこれるのでしょうか?

この時期、カモ類は北に帰り、川はすこし静けさを感じます。コガモだけはまだ帰らず、岸辺で休息をとっています。イソシギが尾をピコピコ動かし虫をさがしています。コチドリが2羽、低空でピーと鳴きながら飛びたちました。コイの産卵も近いのか、ときどき大きな水音をたてています。

川はいろいろな役割をしています。冬の渡り鳥を迎え入れ、魚・昆虫を育て、そして私たちの飲水、発電、稲作、工場や生活など、すべての命を育くむところですね。小出川も今、川の幅を広げる改修工事を行っています。洪水対策は安心です。一方普段から水量が少ないのに、乾期に水無川になって魚たちが生きられるのでしょうか?植物のことも、最大限に考慮して工事していただきたいです。

モンシロチョウもいました。キタテハも産卵場所を捜しているのか、忙しそうに飛びまわっていました。今日歩いて、本格的な春が訪れたことを実感しました。

(円蔵 高橋静子)

小鳥たちのさえずり

3月下旬から4月にかけて、アオジのさえずりを聞いた。細く響く声で鳴いていました。

3月27日、アシ原で盛んに「チューーン」と鳴く、オオジュリンのさえずりを聞く。

ホオジロやセッカも、4月1日にさえずりを聞く。

(香川 目黒啓子)

ミニニュース

4月7日11時頃、甘沼の北根地区のフリーハンドレッドゴルフ場脇の竹林に、リスがいました。口に木のくずをくわえて、斜面林の中に入っていました。

4月9日6時頃、下寺尾でツバメが2羽飛んでいました。なお、昨年は4月1日にはじめて見ました。

(松風台 山崎孝弥)

緑映える季節に

我が家の周辺で、今年もウグイスが鳴き、春の季節を知らせてくれた。

4月3日、香川駅前の桜の花が満開に咲き始めた。その周辺を数羽のツバメが民家の軒先の巣の中から、出たり入ったりしている。桜の木に止まるコゲラの声も大きく響く。

一ツ橋から行谷にかけて歩く。紫色の花々が目に付く、ムラサキケマン、ホトケノザ、カキドオシ、ヒメオドリコソウ、トキワハゼ、ムラサキゴケも田のあぜに咲き始めている。

この中に、黄色のヘビイチゴ、オヘビイチゴ、キジムシロ、ジシバリなどの花々が紫色をした花の中に入ると、まさに鮮やかな花畑になります。

雑草の中から、白い小さなツボスミレ

が顔をのぞかせているので、じっと見ていると足元に、小さな幼鳥がいた。そういえば木の枝に止まった、モズの雄と雌が長いこと「キィ、キィ、キィ」と警戒の鳴き声を出している。モズの幼鳥が気付くとかたわらによってきたので、一枚写真を撮ろうと幼鳥を手につくと、いきなり大きな口を開けて人差し指を噛まれた。あわてて離れたら、ものすごいスピードで藪の中に入っていった。この様子を見ていたモズの夫婦も、ひと安心したにちがいない。しかし、私は藪の中に入っていった幼鳥が、ヘビに食べられはしないか心配だった。

そんな中、「キビョー」と鳴く鳥の声に、田んぼを双眼鏡で見ると、一羽のムナグロがいた。肉眼では、田んぼの土の色と変わらないので見分けがつかない。頭から上面が黒と黄褐色で顔から胸と腹が黒い。これから河川や干潟、農耕地などに、渡りの途中に一休みをする様々なシギ類の姿を見ることができる。

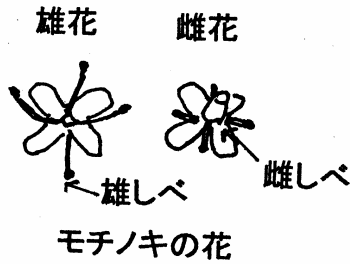
そろそろ田んぼは、田植えの準備が始まる。

(香川 目黒啓子)

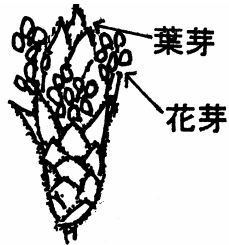
4月の花ごよみ(柳島海岸)

4月11日、斎藤、吉田、河野、石井の4人で4月の花ごよみの観察に出かけました。あいにくの曇り空でしたが、みずみずしい花芽、葉芽、若葉に春を感じました。

県立柳島青少年キャンプ場(以下キャンプ場)のなかほどに、モチノキの雄株と雌株が並んであります。ちょうど雄株も雌株も花ざかりで、それぞれ雄花、雌花の特徴をよく表していました。すでに役割を終えた雄花でしょう、道一面に落ちていましたが、雌花はしっかり枝に着いていてほとんど落ちていませんでした。



タブノキの芽吹きが盛んに見られました。タブノキの新芽は混芽といって花芽と葉芽がいっしょに入っています。絹毛におおわれた隣片を開いてみると、数個の花序のつぼみと数枚の若草色の葉芽が詰まっていました。この葉芽は若葉になると赤味を帯びてきます。



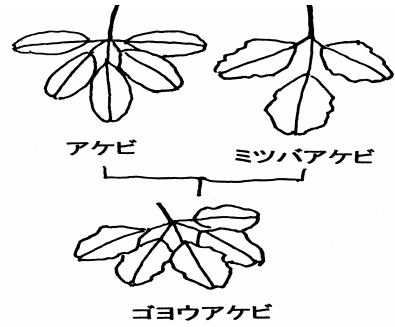
タブノキの混芽

その名の通りに真っ赤になったアカメガシワの小さな若葉を葉拓のように紙に押し付けてみると、赤い色素が紙に写ってきれいに葉脈が浮き出ました。家に帰って翌日見ると、リトマス試験紙のように赤い色は青に変わっていました。



アカメガシワの若葉

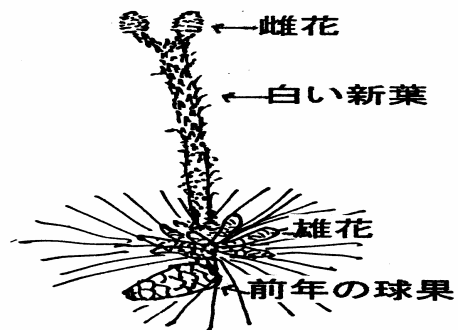
キャンプ場には、アケビもミツバアケビもあるので、両者の自然交雑種であるゴヨウアケビもかなりあることが分かりました。



キャンプ場の草むらの中に花ざかりのスズメノヤリが十数株ありました。中には花序がはっきり枝分かれしているのがあったので、ヤマスズメノヒエかもしれないと考えましたが、同じ株から出ているのが一つの茎に一つの花のものがほとんどなので、スズメノヤリということになりました。



クロマツも芽吹きの時期で、各枝の先につんつんと新しい枝を出していました。新しい枝の先端にある雌花は、未熟のようでしたが、新枝の基部にある雄花は赤と黄色で彩られて、多数突き出ていました。雄花の下には前年の球果をつけているものもありました。



クロマツの芽吹き

(東海岸南 石井準子)

ケヤキとサクラの雨

昨年の初夏のことだったと思います。藤沢の善行駅前から私が乗ったタクシーの運転士さんとの会話。フロントガラスに霧雨のような水滴(私にはそう見えた)がついていた。

「雨ですか?」と私。「いや、違いますよ。これはケヤキの樹液なんですよ。木陰に車を止めておくと、こうなってしまうんです。水でも取れないんですよね。」と言ってワイパーを動かして見せてくれました。「本当に困るんですよ。ケヤキばかりではなくて、サクラの木の下もすごいですよ。」と話してくれました。

(市内 酒造とめ子)

ゴイサギ(ゴイサギガイ)

私が今年の11月ごろに浜見平団地の公園で見つけたのは貝の化石でした。

変な黄土色の土のかたまりの中から出たこの化石ははっきりと貝だと分かる形です。まわりが少し欠けてしまっていたが、曲線がうき上がり、からをぴったりとつけあっている二枚の貝に芯しんがのこっていました。でもここ、浜見平の土はあちこちの市や町で取ってうめられた土なので同定はむずかしく、文化資料館に聞いたところ、「たぶんナミノコガイか、フジノハナガイではないでしょうか。」と返事をもらいました。

このあと、県立生命の星・地球博物館でようやく分かりました。なんと、名前は「ゴイサギガイ」。学芸員の先生、ありがとうございます。聞いて本当に変な名前だと思いました。鳥にも同じ名前の鳥がいたので不思議と間違えそうです。でも化石の同定ができてうれしかったです。

平成18年5月6日

(市内 溝尻あかね【小学生】)

ふくらみはよわいですが、合わせた貝を手に取ると太古のロマンを感じています。

分布は、北海道西～九州で水深10～50mです。貝の表側(殻表)は平滑で光沢があります。貝柱のあいだにある紐ひも(套線湾)は、左側より右側が深いです。発見した貝は、若い年代の地層なのだそうです。

「ゴイサギ」

学名: MACOMA TOKYOUENSIS

科名: ニッコウガイ科

(市内 溝尻あかねの母)

小出川の花ごよみ

5月16日(火)、くもり時々小雨。浜園橋から上流の養護学校の辺りまで歩きました。

1ヶ月ぶりの小出川ですが、先月まで草丈が小さかったのに、今日の土手は両側が緑にうめつくされ、わずか人が通っているところだけが土色の道になっている状態です。その足元には、オオバコが一直線に生えています。そしてそのとなりに、背の低いオオイヌノフグリ、マメグンバイナズナ、コメツブツメクサ、ウシハコベ、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、ヤブヘビイチゴ、オオジシバリ、ナズナ等、その奥にハルジオン、オヤブジラミ、アカツメクサ、スイバ、ギシギシ、カラスノエンドウ、ノゲシ、オニノゲシ、コウゾリナなどの、背が高くなる草でうめつくされ、さらにその奥にヨシ、オギ、クズ等の大きな植物が力強く伸びています。

クズのつるはまだ葉があまり開いていないで、にゅうーとヘビが鎌首かまくびをもたげたような格好で、そのうちまわりの植物たちを飲みこんでしまいそうな不気味

な型に見えました。そのクズも、秋には赤紫色の大きな房状のよい香りの花を咲かせてくれます。それを楽しみにしましょう。

今日は、ノイバラの白い花が満開でよい香りをはなっていました。スイカズラも香水のような強い香りをただよわせ、白い花と、咲いて時間がすぎてピンク色がかった花の二色を見ることができます。

ノゲシが沢山咲いていました。「これもノゲシよね。」と気安く触れたら、とても痛いおもいをして仲間に笑われてしまいました。オニノゲシだったのです。茎のまわりの葉の巻き具合を確かめれば良かったのに。(葉が茎のところで丸く反り返っているのがオニノゲシでしたね。)

先月は、オニグルミの木に雄花序が沢山ぶらさがっていましたが、もう役目が終わったのか、なくなっています。また、先月見た雄花序の下には、小さな青い実が出来ていました。

私はヘラオオバコの花の形が、土星のような形でユニークに見えて可愛らしいと思っています。これも外来種で、小出川でも増えている様です。

ほんのわずかな距離を2時間もかけて歩きましたが、イチゴツナギとナガバグサの違いを教わったり、スイバの雄花と雌花を見分けたり、先月まで沢山あったキラソウを捜したり、スギナについて水玉が美しいとながめたり、コチドリが「ピッピッ」と鳴きながら飛んだのを喜んだり、キンミズヒキに似ている葉を見つけて何だろうと図鑑を開いたり、ヒバリの鳴く空をながめてさがしたりと、小雨が降ってきて、干した洗濯物を気にしながらも帰りたくないくらい楽しみました。

(円蔵 高橋静子)

香川と文化資料館のウグイス

●香川のウグイス

4月30日朝、6時前に香川・諏訪神社東斜面の雑木林で、6時半ころは、玄珊寺の大きなカヤの木で鳴いていた。

諏訪神社東にすむ人の話では、はじめはうまく鳴けなかったが、このごろは上手になり、ずっと鳴いていたとのことである。

なお、香川の西端、川端と呼ばれる家の北にある林では春になるといつもウグイスが鳴いているとのこと。

また、香川1丁目では、3月8日、満開の梅(今年は開花が遅かった)の林でウグイスの初鳴き。その後、3月12日より28日まで毎日鳴いていた。はじめのころはとちり鳴き(その年になきはじめて、まだ、なめらかに鳴けないときの鳴き方)であったがお彼岸のころには上手に鳴いた。

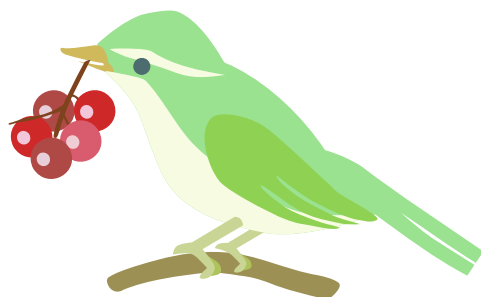
香川1丁目でウグイスの鳴き声を聞いたのは、4年ぶり。周りに家が建て込んできたし、松風台西に一中通りが延長される工事が進行中なので、ウグイスはもうこないかとあきらめていた。

●文化資料館のウグイス

5月4日午前、館の西の方で鳴いていた。昼ころ、館の庭にある大きなヤマモモの木で、ケキョ、ケキョと数回鳴き始めて、飛んでいってしまった。夕方、また、西の方で鳴き声がした。

5月7日午前、西の方で二度ケキョと聞こえた。

(文化資料館 池田卓郎)



香川のアオサギ

香川駅から西に向かうと5分ほどで小出川に至るが、その手前右側に旧家の防風林とおぼしき林がある。北東角を浄心寺に接し、北側を香川グリーンに接している。

私は、このゴルフ場に30年あまり通っているが、練習を通じて妙なことが気にかかっている。

3月の中頃、この林が俄かに騒がしくなり、グアグア、カーカーと騒がしい。2羽のアオサギと7~8羽のカラスがテリトリーを争っている様子であった。以前からこの林に近づく野鳥は時たまあるが、トビなどが近づくと、カラスが緊急発進して撃退しているのをよく見かけていた。

今回は、アオサギが同居を果たしたところを見ると、どうやらアオサギが勝利を収めたのであろうか。

4月7日及び15日、大きなタブの梢に親鳥が現われると、雛鳥と思われる複数の鳴き声が聞こえ、ギャーギャーという合唱が聞こえ始めた。姿とは異なり悪声である。

4月22日、午前中は頻りに給餌が行われたが、午後は回数が少ないように思われた。こころなし、カラスを見かけることが少なくなっているように思われる。

5月の連休の頃、たまたまこの頃は強風が吹いてアオサギの姿を見かけることが出来なかった。

5月8日、このところ姿を見かけなかったことから、すでに巣離れしたのかとも思っていたが、親鳥の飛来を確認した。

5月10日、今日はどうだろうと眺めていたら、無風、小雨模様の高木の上の巣に何回も給餌があった。よく見ていると親鳥が近づく時は鳴きながら近づいており、雛のほうも親を呼んでいる声を出している。今までは親を呼ぶことはなか

ったと思われるので、不思議に思っていたところ、昼近くの給餌の後に雛鳥はグアグアと鳴きながら親鳥の後を追って飛び立った。近くの小出川の河畔の葭原の辺りに降りた様子である。

あとには静けさが戻ったように思われた。

この春先から今日まで、上記の眺めがあって、何となく気にかかっていたのであるが、私自身は野鳥のことが何もわからないことや高木の梢の営巣なので100ヤードほどの近さでありながら確実に目視できていない。

一人のゴルファーの観察であるので、詳しくは、どなたか野鳥に詳しい方の観察にお任せしたい。

もし、私の観察が正しければ、来年の春にはまたアオサギとカラスのせめぎあいが見られるのではなかろうか。

(松風台 天野)

シジュウカラとハシブトガラス

文化資料館のまわりの樹木に巣箱が架設してあります。このことについてこの1ヶ月の出来事を報告します。

4月2日、ヤマモモは古い巣箱、南側のクロマツ(古い巣箱と替える)、北側のコナラ、東側のサクラ(ソメイヨシノ)にそれぞれに1個ずつ新しい巣箱を架設してみました。クロマツの古い巣箱には10cmほどのヤモリが住みついでいて、冷たい風が吹く頃でしたので動きがほとんどありません。はずした巣箱の中に入れておきましたが、やがてどこかへと姿を消しました。この頃、ヤマモモの古い巣箱でシジュウカラの雄と雌が出入りしていました。

4月16日、雄が2cmほどのアオムシ(青っぽい幼虫)をくわえ、巣箱の前でそのアオムシを雌に与えていました。

4月23日、雄が小さな虫をくわえて

巣箱の中に入るようになり、巣箱の中で雄が雌に餌を与えているのかと思っていたら、数羽のヒナの鳴き声がかすかに聞こえました。

4月26日、雄が巣箱近くのヒマラヤスギやサクラにつく虫をしきりと探し回っていました。ハシブトガラスに気付かれ巣箱の付近から離れなません。

4月28日、朝(8時20分頃)のヒナの鳴き声は一段と大きい。しばらく餌を運ぶようすを観ていましたが、雄の運ぶ回数多くなり、1分前後おきに巣箱に入ってきます。そのうち、運ぶ回数も少なくなり、ヒナの鳴き声も静かになってきたのが9時頃でした。

9時30分頃、突然にシジュウカラの警戒する鳴き声があたりに響き渡りました。古い巣箱を観ると、ハシブトガラスがどうもヒナをねらっているようです。追い払っても、追い払ってもカラスはしつこくて逃げようもしない。カラスがいる限り、シジュウカラの警戒する鳴き声はやみません。

今日は野鳥調査に出かけた日で、15時頃、気にしながらや帰ってきましたが、案の定、巣箱は、あの太く鋭いくちばしでふたが割られ、板とコケの布団と産座(卵を産むくぼみ)が落ちていました。ヒナを探してみましたが、すでにそこにはヒナの姿はありませんでした。巣立ち間近なヒナの行方はどこに、数羽でも飛び立ってくれればと願うものです。自然界の中では、食う食われるの関係はごく普通なこと、観察記録として途中で終わってしまいました。

ハシブトガラスもこの頃になると餌探しに苦労しているのだろうか。もしかするとカラスのヒナの餌になっているのだろうか。このような場面は観たことがないので想像でしかいえない。

4月30日にはクロマツの新しい巣箱を覗く行動(私は巣箱のぞきという)

をするシジュウカラがいましたが、ヤマモモの巣箱を利用した個体なのかはわかりません。



巣箱にとまるシジュウカラ



クロマツの巣箱をのぞくシジュウカラ
(文化資料館 小室明彦)

シュレーゲルアオガエル

懐かしい童謡に、「蛙の笛」という歌がありました。

その歌詞に、「月夜のたんぼで、コロコロコロと鳴る笛は、あれはね、あれはね、あれは蛙の銀の笛♪」と、シュレーゲルアオガエルの鳴き声を歌った歌がありました。4月～5月に小出川沿いで、たくさんの数で鳴いていました。残念ながら、この湿地は川の拡幅工事の為になくなってしまおうそうです。

6月初旬現在、茅ヶ崎の色々な場所で、シュレーゲルアオガエルの鳴く声を多く聞けるようになってきています。

(香川 目黒啓子)

芹沢のアマサギ

5月15日、芹沢の田んぼに1台の大型トラクターが動いていた。その後を2羽のアマサギがついて歩いている。

トラクターが動くたび、掘り起こされた田んぼの土の中から飛び出すアマガエルなどを捕食している。

まもなく、1羽、2羽と次から次と、トラクターの傍に飛んでくる。全部で7羽のアマサギが、動き回っているトラクターの周辺を歩き、アマガエルを捕まえて口の中に入れていく。見ているとすごい数のアマガエルが土の中にいるのに驚いた。

まもなく、トラクターが別の田んぼに移動していった。エサ取りをあきらめたように、1羽、2羽と飛び散らばっていった。

5月25日、芹沢の田んぼに、南側18羽、北側の田んぼに20羽ほどのアマサギが採餌していた。

(香川 目黒啓子)

ショウビタキのさえずり

3月13日、香川3丁目。畑をさくっていると、小鳥のさえずりが聞こえた。もう、アオジがさえずりだしたのかと思い、でも、声があまり大きくないので離れている所で鳴いているのだろうと、遠くの電線やテレビのアンテナを探した。でも、探し出せなかった。しばらくして、また、さえずり声を聞いた。今度も声は小さい。声の方を探すと10㍍位の所にある柿の木の下の方の枝にショウビタキが止まっていた。声はそこから聞こえる。見ていると、飛び立ち、円を描くように飛んで、10㍍くらい離れた物干しの柱の先端に止まり、さっき聞いたと同じようにさえずりだした。ショウビタキのさえずりは初めて聞いたような気が

する。

アオジとの違いは、アオジは木の高枝で大きな声でさえずるが、ショウビタキは木の下の方の枝でさえずり、声が小さい。

(文化資料館 池田卓郎)

シジュウカラの巣立ち

3月に入った頃から巣材を運び始め、我が家のシジュウカラの巣箱周辺は賑やかになった。長いもの、青いものをくちばしにくわえ、巣箱に入っていく。

3月24日、巣作りが終わったのか、巣材運びはぱったりとない。

4月半ば過ぎ、巣箱の前を通る時、ジュクジュクと親鳥の声が聞こえてくる。

5月3日、雛の声は大きくなり、親鳥達の運び餌、巣箱を出る時に運び出す糞が大きくなる。

5月5日、朝からいつもと違うシジュウカラの声。東隣の家の方から親鳥達の声が騒がしく聞こえる。巣立ちではないかと気になり巣箱を見るが、巣箱周辺ではなく、お隣の木立の方でしきりに親鳥が泣き叫んでいる。主人も気づき、巣箱周辺に気を配る。寝室の前のイヌザクロの木に、雛らしい1羽を認める。気をつけて見ると、その木に3羽の雛を見つける。早速孫に知らせ、小さな雛の姿を見せる。

巣箱から飛び立ち、近い木に止まっていたのだ。風の強い日で、かなり木が揺れる。身動きもせずじっとしている。気をつけて見ると、その木に3羽の雛を見つけた。巣箱から近い木に飛び立ったのだ。風の強い日で、かなり木が揺れている。更に気をつけると、門のそばのカリンの木にも1羽の姿を見つけた。しっかり飛び立てる力もなく、巣箱に近い低い木に、しっかり身を寄せていたのだ。

主人は、風にあおられて、木の下に落

ちた雛をすくいあげて持ってきた。頭に産毛が2、3本残る小さな雛だった。そっと兄弟のいる木に止まらせる。しばらく様子を見る事にする。

親鳥たちは、巣立った雛のためのエサをくわえて鳴き叫ぶ。何羽の雛がかえり、どこに身を寄せているのか分かっているのだろうか。心配になる。

親鳥たちのただならぬ鳴き声を聞きつけ、前の家の飼い猫のシロは、雛たちのいる低木の下に身を構えている。またカラスも近くの電線に止まり、様子を伺っている。お隣のご夫妻が庭に出ていらしたので声をかけ、雛が巣立ったことを報告し、門のそばのカリンの木に止まっている可愛い雛の姿をお見せする。喜んで下さる。その日は、親鳥と雛の鳴き交わす声が夕方まで続いた。

翌日、お隣の奥様から、裏庭で鳥の羽を見かけ、体は見つからなかったと報告を受け、猫の餌食となったことを知った。何羽の雛が元気に巣立ったかはわからない。自然の摂理とは言いながら、複雑な思いで一杯になる。

巣立ち後、2、3日は親鳥と雛の鳴き交わす声がお隣の庭の方から聞かれたが、その後は聞かれなくなった。

6月1日夕方、巣箱近くでシジュウカラの声。庭を覗くと、巣箱の入り口にシジュウカラが止まり、中を覗いている。覗いているのは親鳥か、雛なのか嬉し

くなる。また来年もいらっしやいと願いながら。

(東海岸 齊藤溢子)

キジのほろうち

5月15日、晴天、芹沢の田んぼの土手や畑で雌雄のキジのペアが目立ちます。

キジは、繁殖期にオスは、「ケンケーン」の鳴き声と、「ドドド…」と翼を打ち鳴らす音を出します。

この翼の音は「キジのほろうち」と呼ばれていて、オスのキジはメスに呼びかける習性で、「ケン」と鳴くのと、「ドドド…」というほろうちを繰り返しているようです。

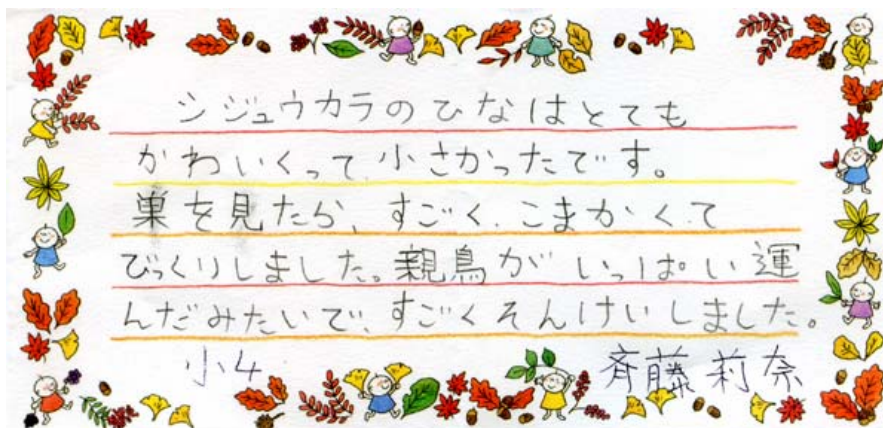
芹沢の畑でこの音を聞いたときに、なんとも不思議な音がいつまでも耳にこびりつき、忘れられないようになっていました。

ところがある日、テレビでキジのほろうちを放映したのです。

キジは翼を大きく広げて、翼をバタバタすることで、特徴のある、あの「ドドド…」の音が出ることを知りました。

こんなキジの様子は、なかなか見ることはできません。たまたまキジが近くにおいて、人間の姿が目に入らない時に、オスのキジはメスに大胆な愛の行動をしているのかもしれませんが。

(香川 目黒啓子)



おしらせ

●「茅ヶ崎自然に親しむ会」

『厚木・八菅山のスタジイ林を訪ねる』

日時：6月18日(日)

『夏休み自然教室』(文化資料館共催)

日時：7月22日(土)、23日(日)

問い合わせは

安井利子(52-3856)まで

●「清水谷を愛する会」

日時：7月2日(日)、8月6日(日)

9時30分～15時

集合場所：市民の森駐車場(堤)

問い合わせは

田部許子(51-2955)まで

●「柳谷の自然に学ぶ会」

『夏の谷戸を見よう』

日時：6月25日(日)

9時30分～14時

『昆虫と水生生物を見よう』

日時：7月23日(日)

9時30分～14時

集合場所：小出支所

問い合わせは、

野田晴美(51-8489)まで

●「駒寄川水と緑と風の会」

『駒寄川下流観察』

日時：7月2日(日)

13時30分

『香川公民館雑木林』

日時：8月6日(日)

時間未定

集合：民俗資料館(旧和田家)

問い合わせは、

池田尚子(52-8919)まで

●「三翠会」

三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなど

に取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。

事務局：河村まき子(87-8313)

記事募集!

自然の新聞では、みなさまからの投稿をお待ちしております。メール、fax、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

★次号の原稿の締め切りは、8月1日(火)までをお願いいたします。

第20回 夏休み自然教室 開催!

「夏休み自然教室」を開催します。

植物・鳥類・昆虫・水生生物・顕微鏡などのコーナーで楽しく体験学習ができます。またバードカービング教室や、竹や木をつかった工作、ミニ自然観察会なども行います。夏休みの自由研究の参考にしてください!

とき：7月22日(土)、23日(日)

じかん：10時～16時

ばしょ：茅ヶ崎市文化資料館



バードカービング教室(2005年)